

【2015年度郡上八幡フィールドワーク実習報告】**郡上八幡における観光の現状と外国からの顧客誘致**

— 上村美佳さん・高田由香さんへのインタビューより —

陳 珺 珺

I. フィールドワーク概要

1. 日時：2015年9月18日

場所：郡上市役所商工観光部観光課

インフォーマント：上村美佳さん

郡上市観光連盟事務局において郡上の観光客誘致に取り組み、海外への広報も行っている。

2. 日時：2015年9月19日

場所：学びの森パスカル

インフォーマント：高田由香さん

長年にわたり国際交流活動に従事し、岐阜県の外国人観光客誘致に通訳として参加している

II. 調査報告**1. 郡上八幡市概要**

郡上八幡市は、日本の中央部にある岐阜県の、さらにそのほぼ真ん中に位置している。東部は下呂市、北部は高山市、西部は関市、福井県大野市、南部は美濃市、関市に接している。市の地勢は、最低海拔地の美並町木尾（このの）が110m、最高海拔地の白鳥町銚子ヶ峰が1,810mと高低差が大きい。長良川の源流部にあたる高鷲町の大日山麓一帯にはひるがの高原・上野高原があり、明宝水沢上（みぞれ）一帯にはめいほう高原が広がっており、雄大な自然に囲まれたロケーションである。また、長良川をはじめとして和良川、石徹白川（いとしろがわ）など一級河川が24本あり、山

林の高い水源涵養力によって、美しく豊かな水に恵まれている [http://www.city.gujo.gifu.jp]。

2015年9月1日現在、総人口は44,082人。うち男性21,367人、女性22,715人となっている。世帯数は15,301である [http://www.city.gujo.gifu.jp]。

2. 郡上八幡の観光の現状

「平成26年市内宿泊施設宿泊客数調査」(外国人)と「平成26年郡上市月別・観光地点別入込客延べ人数」(日本人と外国人全体の数)の資料から読み取ることができる郡上八幡市の観光の現状は以下のようにまとめられる。

- ①個人観光客が少なく、団体の観光客が多い。
- ②この一、二年、外国人観光客の数が増えている。国別にみると台湾からの観光客が多い。平成26年度、立ち寄り客は9万人、そのうち8万人は台湾客である。
- ③飛騨高山と白川郷は外国人に大人気であり、そこに行く途中で郡上八幡に寄る外国観光客が多い。しかし、最近、バスで郡上八幡に来る個人観光客が少しずつ増えている。

3. 郡上八幡の観光PR戦略(上村美佳氏へのインタビューに基づく)

(1) 日本人観光客を対象としたPR戦略

日本人観光客に向けた郡上の観光資源は、祭り、食品サンプル、水、釣り、特産品などである。

郡上八幡は日本一の踊りのまちとして知られ、夏の2ヶ月間約30夜にわたって、盆踊りが開催されている。郡上おとりの特報は、見る踊りではなく、観光客も参加できる踊りだということにある。また、それ以外の時期でも、郡上八幡博覧館で郡上おどりを体験できる。

郡上でもう一つ観光体験できるのは、食品サンプルづくりである。郡上八幡の食品サンプル工房で野菜のてんぷらなどのサンプルづくりを体験できる。また、町内でも工房の売店や土産物店で、さまざまな種類のサンプ

ル品の携帯ストラップ、アクセサリなどが販売されている。

郡上の川は川底が透けて見える。川の綺麗さに感動して、写真を撮ったり、地元の子が遊んでいる写真を撮ったりする観光客が多い。また、清流長良川を舞台にカヌー・ラフティングの体験ツアーもあるし、釣りの体験もできる。特に鮎の解禁時には、日本人の観光客が多い。

観光客に向けて、郡上八幡ではたくさんの特産品を開発した。例えば、ゆず味のゼリー「水味雫」、地元の鶏卵を使ったチーズプリン、明宝ハムなどである。

日本人観光客に対する PR 方法としては、雑誌や新聞に広告を出したり、各地の観光イベントに出向いて PR をする。また、旅行会社、メディアを活用するだけでなく、人気のあるブロガーや利用者が多いフェースブックのページを持つ人などを郡上に招いて、記事を書いて現地から発信してもらうこともある。観光客が撮った写真をフェースブックで発信してくれるといったことも、よい PR だと上村さんは考えている。

(2) 海外からの観光客を対象とした PR 戦略

海外からの観光客にとって、バスに乗ってお寺や神社を見てまわることもよいが、郡上八幡の食品サンプル工房や郡上八幡博覧館での郡上踊りの体験のほうが人気がある。例えば、食品サンプルは自分で作ってみるだけでなく、作った物がお土産になる。郡上踊りの体験も、スタッフが観光客に浴衣を着せて写真を撮ってあげると、とても喜ばれる。また郡上踊り体験と「街なか散策」をセットにした特別プランもある。「街なか散策」では、地図の中で指定された店で商品と交換できる特別なチケットも手渡され、ただ歩くだけではなく途中でおやつを食べたりもする。

また、海外の観光客には、雪も大変人気があり、雪遊びをしたい人も多い。特に黒部川のスノー・ラフティングが台湾観光客に人気である。郡上市高鷲町では、ひるがの高原スキー場でスノー・ラフティングができ、一回 350 円とお手頃である。上村さんは、「ネクスト北海道を目指して、中部の人は頑張っている」と言っておられた。

一方、食べ物では、外国人は川魚が苦手な人が多いため、肉の方が人気

がある。郡上では、鶏肉を郡上産の味噌で味付け野菜と一緒に鉄板で焼いた「鶏ちゃん定食」が、人気である。

海外の観光客に対するPRは、岐阜県や国の「中部応援局」という組織が中心となって、海外からの観光客誘致の活動を行なっている。海外から視察ツアーの方々を招き、一緒に街を歩いて郡上八幡の魅力をPRすることが多い。「郡上だけでできることは少ない。今は岐阜県や、他の市と協力し、一緒になってPRすることによって日本に来てくれる外国人観光客が増え、その結果、郡上に来てもらう外国人も増える」とい、上村さんは考えている。上村さんは、10年前に北京にいて郡上踊りの宣伝をした。3年前には、台湾の台中市にも行って宣伝した。これまでは、海外の観光客誘致は台湾を中心にしていたが、最近、岐阜県が東南アジアにもプロモーションを始めている。今年、上村さんは岐阜県観光課の職員と共にベトナムとフィリピンを訪問した。しかし、現地での岐阜県の認知度はまだまだである。ベトナムで郡上八幡の宣伝をする際、上村さんは浴衣を着用して動画や写真、そして食品サンプルを見せた。PRにはできるだけ、実物を見せるようにしている。

4. 海外からの観光客受入体制の充実(高田由香氏インタビューに基づく)

(1) 地場産業の体験

高田さんは、観光を考えるうえで地場産業を重視することが大事だと考えている。外国人観光客を誘致するには、地場産業の体験は素晴らしい方法である。

郡上八幡で体験できる地場産業の一つは食品サンプルである。郡上八幡は食品サンプルのふる里と言われ、日本全国の食品サンプルの大半を生産している。先に述べたように、観光客は自分で食品サンプルを作り、お土産として持ち帰ることもできる。また、郡上八幡ではグリーンツーリズムの体験もできる。グリーン・ツーリズムは、農家の人たちが外国人を接待する経験をするという試みでもあった。農家で体験をしてもらった後にはアンケートを実施し、観光客の受け入れ態勢の充実を目指した。

(2) 人材の活用と育成

現在、郡上八幡では外国人観光客に対応するボランティア活動はあるが、近年、個人観光客が増えていることもあり、まだ十分とは言えない。観光客が困らない体制づくりが必要である。しかし、実際、郡上八幡は小さな町で外国人も住んでおらず、外国語ができる人材も少ない。

外国人の観光客を受け入れるには、地元の人たちがコミュニケーション力をつけることが大切である。「外国人とコミュニケーションをとる時は、言葉の問題や文化の壁があるので、身振り手振りなど動作をつかった表現が大事である」と高田さんは言う。言葉は伝わらなくても、気持ちは伝わるからである。

観光産業の活性化に必要なのは、まず、第一にスタッフ教育である。高田さんは、サンプル工房のスタッフに外国人観光客への対応の仕方などを指導している。観光客と関わるスタッフが街の魅力をより深く知れば、自分の仕事をさらに大事にするし、街のよさを伝えようとする気持ちも強くなる。これが何より重要である。

2010年に、地域教育と観光人材育成の一環として、郡上八幡の中学生、高校生を対象にした「自分の街をガイドしよう」というイベントを実施した。その際、生徒たちは外国人観光客と一緒に古い町並みを散策しながら、観光案内のための英語表現を学んだ。

また、周辺大学の外国人留学生の活用も大切である。3年前、郡上八幡博覧館のパンフレットのタイ語版とインドネシア語版を作った際は、名古屋大学の留学生にアルバイトを依頼した。外国人観光客を誘致するうえで、留学生の協力は大きな助けとなるだろう。

おわりに

郡上八幡にはたくさんの観光資源があるが、街の認知度を高めることと観光人材の育成が今後の課題である。しかし、そうして観光客が増えたとして、その後も多くの問題が生じる。例えば、郡上踊りに多くの観光客が集まればゴミが問題も深刻化する。「特に徹夜おどりの時」と上村さんは言う。現時点でこれといった解決策はなく、朝、街の人と市の職員みんな

で掃除をして、その日に来る観光客のために街に綺麗にするといった取り組みが必要になる。今後、観光客の誘致だけでなく、このような弊害への対策も検討することが求められる。